

平成 26 年度中部地区 C O C 事業採択校 学生交流会

C O C 事業採択校情報交換会において、C O C 事業に携わった学生による発表を行い、他大学の学生同士で交流することにより、C O C 事業の推進を図る提案が金沢工業大学より挙げられた。情報交換会参加の採択校が賛同し、特別参加の香川大学を含む 1 2 大学が参加した。岐阜大学と同じく幹事校である金沢工業大学と打ち合わせや調整を行いながら、担当者として交流会の企画・運営を行った。

岐阜大学は応用生物科学部 1 年生が「地域振興プロジェクト～飛騨牛の将来について～」について発表した。また、司会及び運営スタッフに岐阜大学の学生（S A : スチューデントアシスタント）3 名を活用し、学生が主役の交流会であることをアピールし、参加者並びに来賓の文部科学省担当者から好評を得ることができた。

[日 時] 平成 27 年 3 月 5 日（木）13:30～17:15

[場 所] じゅうろくプラザ

[参加大学] 中部大学、福井大学、岐阜大学、香川大学、金沢工業大学、名古屋学院大学、日本福祉大学、滋賀県立大学、信州大学、静岡県立大学、富山県立大学、四日市大学（1 2 大学）

[出席者] 117 人

[内 容] C O C 事業の取組みについて各大学の代表学生による発表、同ポスターセッション
交流会（17:30～19:00）85 人出席

[発表テーマ]

発表順	大学名	テーマ
1	中部大学	今はじまった 自分を創造する道
2	福井大学	汎用プラスチックにおける比熱のモデル化と経時変化の予測
3	岐阜大学	地域振興プロジェクト～飛騨牛の将来について～
4	香川大学	瀬戸内地域活性化プロジェクト 東かがわ市住民主体のまちおこし
5	金沢工業大学	空間デザイン研究：アクティビティを創発させる可変型空間装置と感性情報の共働
6	名古屋学院大学	SNS を活用した減災まちづくり ～大学生が進める減災まちづくり～
7	日本福祉大学	地域を知り、人々をつなぐ。その先へ～知多半島で学んだ知を、過疎の地のまちに活かす～
8	滋賀県立大学	近江楽座プロジェクト「かみおかベ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-」の活動紹介・近江楽座 1 0 周年記念企画の開催報告
9	信州大学	PBL (Project Based Learning) を組み込んだ自治体との共同研究
10	静岡県立大学	地域のレジリエンスを創り出すための静岡県立大学生による挑戦
11	富山県立大学	学生団体 C O C O S ファミレスとの戦い ～地域を包み焼いて～
12	四日市大学	四日市大学協創ラボ～「自治体と取り組む『親しまれる四日市港づくり』」

[アンケート結果]

会全体の感想として、95%が「とてもよかった」または「よかった」と回答した。

[参加者の意見]

- ・交流会で他大学の活動を知ることは自分たちの活動への大きな刺激になりました。貴重な経験の機会を与えて頂きありがとうございました。
- ・どの学生も自分たちの活動に自信と魅力を感じていたように思える。学生の主体性が素晴らしい。教員が機会をつくる（教育の場をつくる）ことが重要である。
- ・今後も引き続きこの会を開催していただきたい。主役は学生で、とても良い交流会だと思います。



発表



ポスターセッション

「地域志向プロジェクト活動報告会」中部地区COC事業探択校 学生交流会

参加大学：中部大学、福井大学、岐阜大学、金沢工業大学、名古屋学院大学、日本福祉大学、滋賀県立大学、信州大学、静岡県立大学、富山県立大学、四日市大学、[特別参加]香川大学 (計12大学)

幹事大学：岐阜大学、金沢工業大学



概要と目的

◎ 中部地区を中心とした大学COC事業探択大学(12大学)による「学生交流会」を開催

岐阜大学の呼びかけにより、中部地区および近隣のCOC事業探択大学の実務者による設置形態の枠を超えた情報交換会を開催し、各大学の実施状況や事業概要について情報を共有するとともに意見交換を行ってきた(H25年度1回、H26年度1回)。こうした中部地区の大学ネットワークの共同企画として、大学という組織を超えた学生ネットワークを形成し、学生同士が互いに刺激し合い、学生の地域志向活動を活性化させることを目的として、「中部地区COC事業探択校学生交流会」を開催した。

◎ 学生交流会の概要

【開催日時】

平成27年3月5日(木) 岐阜市(JR岐阜駅前・じゅうろくプラザ)

【参加状況】

12大学の学生・教職員を含めた117人 (学生47人、教職員55人、一般(他大学、自治体、企業等)15人)

【準備から運営まで】

- ・岐阜大学の学生がスタッフとして、会場の準備から受付、参加者の誘導、撤去作業などに携わった。
- ・全体の司会進行は岐阜大学・応用生物科学部(2年生)の若林夕莉さんが担当した。

【プログラム構成】

各大学の学生によるプレゼンテーションと質疑応答、同会場内で各大学の学生の展示によるポスターセッションを実施

【プレゼンテーションの評価】

各大学の教職員1名が評価員となり、各プレゼンテーションに対して順位付けをするのではなく、「独創性」、「モデル性」、「地域性」、「調査・研究力」、「グループ力」の5つの観点から、特に際立った点を評価し、プレゼンテーション毎に評価された観点を講評(複数の観点が評価されたものもあれば、1つの観点到評価が集中するものもあった)

活動の様子

◎ 参加大学によるプレゼンテーション(一部)

◆ 金沢工業大学・・・空間デザイン研究:アクティビティを創発させる可変型空間装置と感性情報の共創

(発表者:上原綾太(環境・建築学部3年)、浦口昂久(同4年)、高野翔(情報プロテック学部4年)、高戸奈央子(同))

【概要】

照明や映像・音響を有する空間造形と視覚メディアによる感性情報を共創させ、金沢中心部の魅力や新たな都市アクティビティを創出する多分野融合のプロジェクトについて報告があった。

【参加者からのコメント】

大学・学部の特徴を生かしたまちづくりであると思う。学生コンセプトも素敵だと感じました。



◆ 岐阜大学・・・地域振興プロジェクト～飛騨牛の将来について～

(発表者:上田裕紀(応用生物科学部1年)、加藤聖弥(同))

【概要】

平成26年度の後期に新設された講義「地域ブランドと地域振興Ⅰ」として、地域ブランド「飛騨牛」に関する講義・試食・施設見学等を通じて、「飛騨牛」が若い世代により親しまれるようになるにはどうしたらよいかのアイデアを活動の成果として報告した。

【参加者からのコメント】

ブランド化や売ることだけでなく教育まで巻き込もうとする点が評価できる。今後に期待します。



◆ 滋賀県立大学・・・近江楽座プロジェクト「かみおかへ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-」の活動紹介等

(発表者:村尾友香(人間文化学部3年))

【概要】

滋賀県彦根市上岡部町に佇む築135年以上の古民家にて、学生の手で建物を改修しながら、古民家勉強会・食卓イベントの企画開催などを行い、新たな空き民家活用の可能性を模索しながら活動しているプロジェクトについて報告した。

【参加者のコメント】

10年の歴史ある活動と学生ならではの視点により地域の文化活動と魅力を発信している。「楽しい」ということは大事ですね。



◆ 日本福祉大学・・・地域を知り、人々をつなぐ。その先へ～知多半島で学んだ知を、過疎の地のまちに活かす～

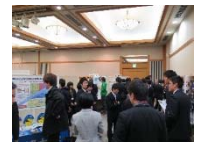
(発表者:村上康介(社会福祉学部3年)、渡邊美咲(同2年)、森下直輝(同2年))

【概要】

経済学部・社会福祉学部の共通プログラムの地域研究プロジェクト「VC(ボランティア・コーディネート)プロジェクト」での、自立的に行動できる人材育成をテーマに、大学が位置する知多半島を拠点とした学びにおける、いわゆる限界集落の長野県上伊那郡辰野町川島地区の定住・移住対策に活かした取り組みと、その成果と今後の展開を報告した。

【参加者のコメント】

発表学生がこれから一年間休学し、地域おこし協力隊に挑戦することに驚かされました。活躍を期待しています。



◆ 富山県立大学・・・学生団体COCOS ファミレスとの戦い～地域を包み焼いて～

(発表者:高松将也(工学部3年))

【概要】

大学COC事業の補助期間終了後の継続を見据えた地域と大学を結ぶハブとなる学生団体「地域協働研究会COCOS」における、大学の地域志向科目の授業支援活動やまちおこし等への企画段階からの活動報告があった。

【参加者のコメント】

サークルではない位置付けの学生団体による事業の継続を視野に入れ、他大学のモデルにもなり得るのでは。プレゼンのセンスも素晴らしかった。



◎ 参加者・学生からの声 (アンケートやインタビューより抜粋)

・交流会で他大学の活動を知ることには自分たちの活動への大きな刺激になりました。貴重な経験の機会を与えて頂きありがとうございました。

・どの学生も自分たちの活動に自信と魅力を感じていたように思える。学生の主体性が素晴らしい。教員が機会をつくる(教育の場をつくる)ことが重要である。

・今後も引き続きこの会を開催していただきたい。主役は学生で、とても良い交流会だと思います。



平成 27 年度中部地区COC事業採択校 学生交流会

昨年度に引き続き、岐阜大学と金沢工業大学が幹事校となって、中部地区で COC 事業を進める各大学の学生による地域活動に関するプレゼンテーション大会を開催した。特別参加の香川大学を含む 11 大学が参加した。岐阜大学と同じく幹事校である金沢工業大学と打ち合わせや調整を行いながら、担当者として交流会の企画・運営を行った。

岐阜大学は、次世代地域リーダー育成プログラムの上級段階である「地域リーダー実践（上級）」受講生の教育学部 4 年生が「秘密基地大作戦 in 冒険の森」について発表した。また、司会及び運営スタッフに岐阜大学の学生（SA：ステューデントアシスタント）5 人を活用した。プレゼン及びポスターセッションのほかその後の情報交換会を通じて、昨年度以上に学生同士の交流が深まり、参加者から好評を得ることができた。

[日 時] 平成 28 年 3 月 1 日（火）13:30～17:15

[場 所] じゅうろくプラザ（岐阜市）

[参加大学] 中部大学、名古屋学院大学、日本福祉大学、金沢工業大学、三重大学、信州大学、富山県立大学、福井大学、滋賀県立大学、香川大学（特別参加）、岐阜大学

[出席者] 105 人

[内 容] COC 事業の取組みについて各大学の代表学生による発表、同ポスターセッション
情報交換会（交流会）（17:30～19:00）88 人出席

[発表テーマ]

発表順	大学名	テーマ
1	香川大学	伝統工芸・讃岐提灯を活用した屋島活性化プロジェクト
2	金沢工業大学	MaTE (Machine Tools Enthusiat) ～地域企業との交流から得た気づきと成長～
3	岐阜大学	秘密基地大作戦 IN 冒険の森
4	滋賀県立大学	地域教育プログラムを受講して
5	信州大学	ローカル・ワークライフバランス 地方で好住者増加のために
6	中部大学	春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育
7	富山県立大学	COC 学生団体のすゝめ
8	名古屋学院大学	熱田区孤立を生まない地域づくり事業
9	日本福祉大学	4 コマ漫画による認知症啓発
10	福井大学	目指せ！災害に強い地域づくり 地域とつながるプロジェクト
11	三重大学	三重大学地域おこしサークル meiku の活動について

[アンケート結果]

会全体の感想として、94%が「とてもよかった」または「よかった」と回答した。

また、96%の学生が、学生交流会の参加前と比べて地域に対する意識や地域活動への意識が「多いに変わった」または「変わった」と回答した。

[参加者の意見]

- ・他の団体がどのようなことを行っているのか知ることができ活動の幅がひろがった。
- ・自分ももっと活動しなくてはいけないと思った。
- ・学生主体の活動事例が昨年より増えてきた印象を受けました。3年目のCOCプログラムを通じて学びが深まってきていると思います。
- ・同じ取組みををするとしても、地域への提案の仕方、地域との関わり方を工夫し、面白くするとその価値が上がると実感した。



発表（香川大学）



発表（名古屋学院大学）



ポスターセッション（岐阜大学）



ポスターセッション（会場の様子）